サポート情報記事

Employee Directory でスキルから従業員を検索する方法

2026 © Vitextra SIA. 無断転載を禁じます。

免責事項

本免責事項の適用上、次のとおり定義します。

- **会社** (本免責事項では「当社」と表記します) とは、Vitextra SIA (Matīsa iela 61-25, Rīga, LV-1009, Latvia) を指します。
- **本ドキュメント**とは、ナレッジベースの記事を指します。
- **お客様**とは、本ドキュメントにアクセスする個人、または該当する場合は、その個人が本ドキュメントにアクセスまたは使用する際に代理となっている会社その他の法人を指します。
- **本 Web サイト**とは、https://vitextra.com からアクセスできる Vitextra を指します。

免責事項

本ドキュメントに記載されている情報は、一般的な情報提供のみを目的としています。

当社は、本ドキュメントの内容における誤りや脱漏について、一切責任を負いません。

いかなる場合も、契約上の訴訟、過失、その他の不法行為上の訴訟であるかを問わず、本ドキュメントの内容の使用に起因または関連して生じる、特別損害、直接損害、間接損害、結果的損害、付随的損害、またはその他一切の損害について、当社は責任を負いません。当社は、事前の通知なく、いつでも本ドキュメントの内容に追加、削除、または変更を行う権利を留保します。

誤りおよび脱漏に関する免責事項

本ドキュメントに記載されている情報は、関心のある事項に関する一般的な指針を示すことのみを目的としています。そのため、本ドキュメントの内容を最新かつ正確に保つために当社があらゆる予防措置を講じている場合でも、誤りが生じる可能性があります。また、法律、規則、規制は変化するため、本ドキュメントに記載されている情報に遅れ、脱漏、または不正確な点が含まれる場合があります。

当社は、誤りや脱漏、またはこの情報の使用によって得られた結果について、責任を負いません。

フェアユースに関する免責事項

当社は、著作権者から明示的な許可を得ていない著作物を使用する場合があります。当社は、批評、論評、ニュース報道、教育、学術研究、または調査の目的で、そのような資料を提供しています。

当社は、これが、米国著作権法第 107 条に規定されている、当該著作物の「フェアユース」にあたると考えています。

お客様が、フェアユースの範囲を超えて、ご自身の目的で本ドキュメントの著作物を使用することを希望される場合は、著作権者から許可を得る必要があります。

「自己責任での使用」に関する免責事項

本ドキュメントのすべての情報は、完全性、正確性、適時性、またはこの情報の使用によって得られる結果について何ら保証することなく、また、性能、商品性、特定目的への適合性に関する保証を含むがこれらに限定されない、明示または黙示を問わずいかなる種類の保証もなく、「現状のまま」提供されます。

当社は、本ドキュメントに記載されている情報に依拠して行われた判断や措置、または結果的損害、特別損害、もしくはこれらに類する損害について、たとえそのような損害の可能性について知らされていた場合でも、お客様またはその他の者に対して責任を負いません。

お問い合わせ

本免責事項についてご不明な点がある場合は、メール (support@vitextra.com) でお問い合わせください。

目次

スキル検索のしくみ 4

スキルの取得元 5

スキル検索を有効にする 6

技能列を追加する 6

詳細ペインにスキルを表示する 7

従業員のスキルを登録する 8

スキルで検索する 9

トラブルシューティング: スキルで誰も見つからない 9

用語 11

Vitextra Employee Directory Web パーツでは、名前、部署、役職だけでなく、その人が持つスキルから同僚を探すことができます。検索ボックスに「**Power BI**」「SAP」「契約法」などと入力すると、**Microsoft 365** のプロフィールにそのスキルを登録している人が一覧表示されます。この記事では、スキル検索のしくみ、管理者による有効化とデータの登録方法、検索時にユーザーに表示される内容について説明します。

スキル検索のしくみ

従業員のスキルは、各ユーザーの Microsoft 365 (**SharePoint**) ユーザー プロファイルの **技能** (スキル) プロパティに格納されています。SharePoint 検索がこのプロパティをインデックス化し、Employee Directory は検索のたびにこのインデックスを照会します。具体的な動作は、Web パーツとデータ ソースによって異なります。

Web パーツとデータ ソース	スキルの検索方法	スキルで見つかった人の表示位置
Employee Directory、ソース **Entra ID (Azure AD)**	検索テキストを SharePoint のユーザー検索に送信して **技能** プロパティを照会し、見つかった人 (最大 45 人) を **Microsoft Graph** から読み込みます。	結果の先頭。名前、役職、部署による通常の一致よりも前に表示されます。
Employee Directory (Entra ID)	同じスキル検索を、入力が止まった少し後に実行します。ディレクトリにすでに含まれている人だけが追加されるため、フィルター、除外、A–Z ナビゲーションは引き続き適用されます。	名前やその他の検索対象列で一致した人の後に表示されます。
Employee Directory、ソース **ユーザー プロファイル**	検索ボックスは SharePoint のユーザー検索を直接照会し、この検索がプロフィールのスキ	他の結果と混在し、検索の関連度順に並びます。

Web パーツとデータソース	スキルの検索方法	スキルで見つかった人の表示位置
	ルもすでに対象にしています。	

Entra ID ベースの 2 つの構成では、スキルで見つかった人の **技能** 列に **一致したスキルが先頭に** 表示されるため、その人が一覧に含まれている理由がひと目でわかります。たとえば「SQL」で検索すると、一致したスキルが末尾に埋もれることなく、「SQL Server, Power BI, Project management」のように表示されます。

検索テキストの照合方法:

- **1 語** の場合は前方一致で照合されます。「Power」で「Power BI」「**Power Automate**」「PowerShell」が見つかります。
- スペースを含む **語句** の場合は完全一致で照合されます。「project management」ではこの語句そのものが見つかり、「project」を含むすべてのプロフィールが見つかるわけではありません。
- 検索テキストは **2 文字以上** 必要です。引用符とアスタリスクは無視されます。

メモ

スキル検索は SharePoint Search API を介して、サインインしているユーザー自身のアクセス許可で実行されます。Web パーツがすでに使用しているもの以外に、Microsoft Graph のアクセス許可は必要ありません。

スキルの取得元

すべての Web パーツは同じデータを読み取ります。それは、ユーザー プロファイル プロパティ **技能** (内部名 `SPS-Skills`) で、Microsoft Graph ではユーザーの `skills` プロパティとして公開されています。SharePoint 検索では、**管理プロパティ** `Skills` として利用できます。

Web パーツは、その他の「専門知識」フィールドは **読み取りません**。特に **Ask Me About** (`SPS-Responsibility`、ディレクトリでは **業務内容** として表示)、**興味**、および他の Microsoft 365 サービスに格納されたスキルは、スキル検索の対象外です。組織でこれらのフィールドに専門知識を管理している場合は、**技能** に移すか、そのフィールドを検索対象の列として追加してください。詳しくは KB10049.

Employee Directory Web パーツにユーザー プロファイルのカスタム属性を追加する方法 を参照してください。

スキル検索を有効にする

新しい Web パーツでは、スキル検索は既定で有効になっています。確認または変更するには、次の手順に従います。

1 ページを編集し、Web パーツのプロパティを開きます。
2 **データ ソース** グループで、**スキルで検索** トグルを探します。
3 スキルで見つかった人を検索結果に追加する場合は **はい** に、通常の列のみを検索する場合は **いいえ** に設定します。
4 ページを再発行します。



「スキルで検索」設定

このトグルは **Employee Directory** と **Employee Directory (Entra ID)** の両方にあります。**Employee Directory (Entra ID)** Web パーツでは、**スキルで検索** がオンであれば、検索対象としてマークされた列が 1 つもない場合でも検索ボックスは使用できます。

警告

スキルで検索 トグルが影響するのは、Entra ID ベースの検索だけです。**Employee Directory** Web パーツでソース **ユーザー プロファイル** を使用している場合、検索は SharePoint のユーザー検索に直接送られ、この検索自体がスキルを照合します。そのため、トグルのオン/オフにかかわらずスキルで人が見つかります。

技能列を追加する

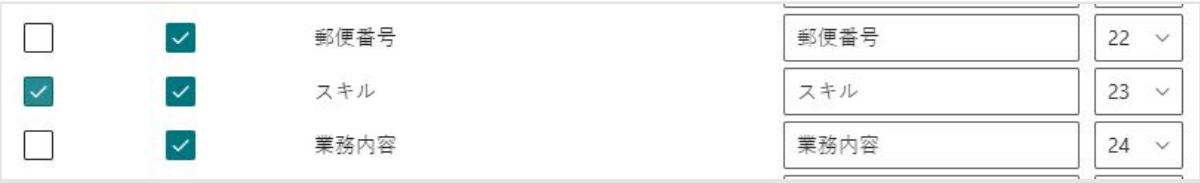
技能 列は既定では非表示です。人が見つかった理由をユーザーがひと目で確認できるよう、表示しておきます。

1 Web パーツのプロパティの **列** で、**構成** を選択します。
2 **技能** の行で **リストに表示する** をオンにします。カード レイアウトでは、列の

設定を保存した後、**コンテンツ フィールド** のいずれかのドロップダウンで **技能** を選択します。

3 必要に応じて **キャプション** フィールドで列の名前を変更し、表示位置を変更します。

4 **保存** を選択します。



技能列の表示

メモ

Entra ID ベースの構成では、**技能** 列に値が表示されるのは、スキルで見つかった人だけです。その他の行では空欄になります。これは、Microsoft Graph がユーザー一覧のクエリでスキルを返さないためです。各ユーザーのスキルの完全な一覧は、いつでも詳細ペインで確認できます。ソース **ユーザー プロファイル** の場合は、すべての人のスキルが列に表示されます。

レイアウトとカードのフィールドについて詳しくは、KB10314. Employee Directory の表示形式: 一覧とカード、カード サイズ、カード フィールド、グループ化 を参照してください。

詳細ペインにスキルを表示する

詳細ペインには、ユーザーのスキルをチップの一覧として表示できます。Web パーツのプロパティで **パネル** グループを開き、**技能** トグルがオンになっていることを確認します (既定ではオンです)。Entra ID ベースの構成では、ペインを開いたときに Microsoft Graph からスキルが読み込まれます。ソース **ユーザー プロファイル** の場合は、検索で返されたスキルが使用されます。

各スキルのチップはリンクになっています。チップを選択すると (ヒントには **このスキルを持つ人を探す** と表示されます)、ペインが閉じ、同じスキルを持つすべての人がディレクトリで検索されます。ソース **ユーザー プロファイル** の場合、チップは `Skills:"<スキル>"` という厳密なクエリを実行します。



詳細ペインのスキル

ペインのその他のセクションについては、KB10199. Employee Directory: 詳細ペインのカスタマイズ を参照してください。

従業員のスキルを登録する

スキル検索の精度は、プロフィールのデータの充実度で決まります。**技能** プロパティを登録する方法はいくつかあります。

ユーザーが自分のプロフィールを編集する。 組織でプロフィールの編集が許可されている場合、従業員は SharePoint のプロフィール ページ (`https://<tenant>-my.sharepoint.com/_layouts/15/editprofile.aspx`) で自分のスキルを入力できます。「Power BI を少し使える」ではなく「Power BI」のように、短く統一された用語を使うよう案内しましょう。

管理者が SharePoint 管理センターでプロフィールを編集する。 **その他の機能 > ユーザー プロファイル > ユーザー プロファイルの管理** に移動し、対象者を検索して **個人用プロファイルの編集** を選択し、**技能** を入力します。

で多数のプロフィールを更新する。 SharePoint 管理者は、CSV ファイルなどからスキルを一括設定できます。

```
Connect-PnPOnline -Url "https://contoso-
admin.sharepoint.com" -Interactive -ClientId "<your-app-id>"
Set-PnPUserProfileProperty -Account "megan@contoso.com" `
    -PropertyName "SPS-Skills" `
    -Values "Power BI", "SQL Server", "Project management"
```

Microsoft Graph。 ユーザーの `skills` プロパティを `PATCH /users/{id}` で更新できるのは、委任されたアクセス許可を使用する場合、つまりサインインしたユーザーが自分のプロフィールを更新する場合だけです。Microsoft Graph はアプリケーションのアクセス許可のみによる `skills` の更新をサポートしていないため、一括変更には PnP PowerShell を使用してください。

警告

新しく追加または変更されたスキルが検索可能になるのは、SharePoint　検索がユーザー　プロファイルを再インデックス化した後です。通常は数時間かかり、大規模なテナントでは 1 日以上かかることもあります。それまでの間、Entra ID ベースの構成の詳細ペインには新しいスキルがすでに表示されていても、検索ではまだ見つからない場合があります。

スキルで検索する

ユーザーは特別な構文を覚える必要はありません。**人を検索します**　ボックスにスキルを入力します。

- 「Python」のように 1 語を入力すると、その語で始まるスキルを持つすべての人が見つかります。
- 「data　analysis」のように語句を入力すると、そのスキルに完全一致する人が見つかります。
- 検索はクイック　フィルターと組み合わせられます。**自分の部署**　を選択している場合、スキルで見つかる人は自分の部署に限定されます。

スキルで見つかった人は、名前、役職、部署、その他の検索対象列で一致した人に追加されます。**技能**　列を表示している場合は、一致したスキルが列の先頭に表示されます。



スキルの検索結果 (一致したスキルが先頭)

詳細ペインからスキル検索を始めることもできます。同僚の詳細を開いてスキルの 1 つを選択すると、同じスキルを持つ他の人が表示されます。

トラブルシューティング: スキルで誰も見つからない

スキル検索で誰も見つからない場合や、見つかるはずの人が表示されない場合は、次の点を確認してください。

- **トグル。** Entra ID ベースの構成では、**スキルで検索** が **はい** に設定されていることを確認します。
- **検索テキスト。** 2 文字以上を入力します。語句は登録されているスキルと完全に一致する必要があるため、代わりに 1 語で試してください。
- **プロフィールのデータ。** その人の詳細ペインを開きます。**技能** セクションが空の場合、その人の **技能** プロパティには何も登録されていません。**Ask Me About** や **興味** の値は検索対象外です。
- **インデックス作成の遅延。** 最近追加したスキルは、まだ検索インデックスに反映されていない可能性があります。次回のユーザー インデックスの更新を待ってください。
- **検索での表示。** その人が SharePoint のユーザー検索で見つかる必要があります。検索から非表示にされたプロフィールや、ユーザー プロファイルのないアカウントは、スキルでは見つかりません。
- **Web パーツの対象範囲。** **Employee Directory (Entra ID)** では、Web パーツのフィルターで含まれ、除外されていない人だけが表示されます。**自分の部署** クイック フィルターも、スキルで見つかる人を絞り込みます。
- **一致が多すぎる場合。** ソースが Entra ID の **Employee Directory** Web パーツでは、スキルで見つかった最初の 45 人が追加されます。よくあるスキルの場合は、検索テキストを絞り込んでください。

ヒント

Web パーツを一から設定するには、KB10309. Employee Directory Web パーツの追加と構成方法 を参照してください。2 つのディレクトリ Web パーツのどちらを選ぶかについては、KB10310. Employee Directory と Employee Directory (Entra ID) の比較: どちらの Web パーツを選ぶべきか を参照してください。

用語

Microsoft 365
Microsoft 365 は、Word、Excel、PowerPoint、Outlook などの生産性アプリと、SharePoint、OneDrive、Teams、Exchange Online などのクラウド サービスを、高度なセキュリティおよびデバイス管理と組み合わせた、クラウドベースのサブスクリプション サービスです。

Microsoft Graph
Microsoft Graph は、Microsoft Entra ID (旧称 Azure Active Directory) と OAuth 2.0 で保護された REST API です。SharePoint、Outlook、OneDrive、Teams など、Microsoft 365 のデータやサービスにアクセスするための単一のエンドポイントを提供します。

Power Automate
Microsoft Power Automate は、ユーザーがアプリケーションとサービス間の自動化されたワークフローを作成できる、クラウドベースのサービスです。高度なコーディングの知識がなくても、データ収集、通知、承認などの反復的なタスクやプロセスを自動化できます。

Power BI
Microsoft Power BI は、ユーザーがデータを視覚化し、組織全体でインサイトを共有したり、アプリや Web サイトに埋め込んだりできる、ビジネス分析ツールです。さまざまなデータ ソースに接続し、生データをインタラクティブなダッシュボードやレポートに変換して、直感的なドラッグ アンド ドロップ機能でデータを分析できます。

SharePoint
SharePoint は、コンテンツ管理、ドキュメント管理、ワークフロー アプリケーション、検索、その他のツールを提供する Web ベースのコラボレーション プラットフォームで、従業員やチームが共同で作業できるようにします。SharePoint は、共有情報を保存、整理、アクセスするための安全な場所でもあります。

管理プロパティ

用語

SharePoint 検索スキーマの管理プロパティは、クロール プロパティのどのデータを検索インデックスに含めるかを定義します。管理プロパティには、検索結果でのコンテンツの表示方法を決定する多数の設定があります。管理プロパティは、返す情報を指定するために検索クエリで使用できます。